

Title	英國の地名の發音について
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1930
Jtitle	史学 Vol.9, No.3 (1930. 9) ,p.113(469)- 114(470)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19300900-0113

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(3) Macan, as cited, I, Lxxiii, 及び cxvii-viii 参照。

(4) 「然しヘルシヤ人が入寇し來つて、そして、敗れて歸るや、優良なる材料が藝術家に提供された。マラソン及びサラシスの勝利が國民の自尊心をあほつた。唯それに言及したものに成功を保證したのみならず、渾沌たる事件を順序づける容易なる手段を提供した。……只勝利民族の虚榮心のミエヂト征服やスキタイ遠征等の大事業を、このギリシヤの最爾たる半島に接近する階梯と見ることが出來た。」 Henri Ouyré, *Les formes littéraires de la pensée Grecque* (Paris, 1900), pp. 307-8.

(5) Polybius, i, 3, 4; tr. by J. L. Strachan-Davidson.

(6) 歴史家の「事業は寧ろ一國民及び一時代の發展を示し、且つ正確に之を記し、その特徴を示してゐる幾多の事件を、其國民又は時代の精神に照して正確に記述するものゝ様である。」 Viscount Haldane, *the Meaning of Truth in History* (London, 1914), p. 10.

今 宮 新

英國の地名の發音について

英語の發音が六かしいのには誰しも閉口する所である、殊に我等に必要なその地名人名に於て一層然りである。私の滯英中(一九二六年)ザックペランに使はれてゐる發音の統一を圖るため、丁度ラヂオで第一回の放送があり、今後大に之が利用さるべきだと思つてゐたが、ロンドンタイムズ週刊一九三〇年八月二十八日號には英語の地名の標準發音について約千五百語ばかりを編集した小冊子が發行せられたことを報じてゐる。

之は勿論イギリスの放送局自身のアナウンサーの用に宛つるため、一の試みとして作られたもので、諸方面の異論もないではないであらうが、今日新聞或はラヂオの用語が普遍性を有する(例へばアナウンサー松内氏のベイスボールの放送は小學生の發音までも支配してゐるを傳へられる)のであるから、本邦で大に誤讀せられてゐる英語の固有名詞の發音を正すのに幾分役立つであらうと思つて、同誌からの見本を左に掲げる。

△標準的のもの Grundisburgh (Suffolk) グラントンブロー、Happisburgh (Norfolk) ハーペンブロー、Sedburgh (Yorkshire) セドバ

ドパー又はゼドパローを發音されるけれども、學校の方はゼドパーと讀めるべく、Alcester (Warwick) ホールンスター、Cirencester シレンスター又はシシスター、Bicester、ユスター、Ardingly and Chiddingly (Sussex) のハイを長音の最後の綴にアンペンントを置く、Hurstmonceux、ハーストモンスター、Houghton-le-Side (Durham) はハウトンな名、Houghton-le-Spring はキートン、Hunstanton は“stan”とハントペントを置くか兩綴の間に置くか、ハントマン、Iwerne (Dorset)、イハドアン、Kirby Bedon (Norfolk) カーユー・ユークマン。

△選擇的な名、Meopham (Kent) はメキンプナ名、Deopham (Norfolk) キーンプナ又はキーンハダ、Masham (Yorkshire) プシカド、Moulton Eaugate (Lincolnshire) キルトン・イーカール、Prah Sands (Cornwall)、ハノー・ハント、Prideaux (Cornwall) プリムリックス、Rievaulx (Yorkshire) リーヴキス又はリットカント、Romney (Kent) リマニー、Romsey (Hants) ロマシー、(Romford, Bromley, Brompton, Pontefract 等の標準が示す) Aller (Somerset) キナリクス、サートナー、Aughertree (Cumb) キンファール、Bosham (Sussex) ボシカマ又はボシカマ、Clenvaux (Yorks) クンムカス、Lewes (Sussex) ルーイス又はサートン、Coggeshall (Essex) コギンシヤス、コロンカス、Lewes (Sussex) ルーイス又はサートン、Mildenhall (Wilts) グルムホール又はグムホール、Newcastle (Northumb.) ニューカスル又はニューカースル、Olney (Bucks) オーニー又はオスニー、Ponsonby (Cumb) ペンソンブー又はペンソンブー、Shrewsbury (Shrops) シフローズブリー又はシナルドブリー、Taunton (Som.) タントント又はタートント。

△五種の選擇——編者が一番困つたのは、Uttoxeter (Staffordshire) は、アトクセター、イネートクセター、フォクセター、アクセター、アッチェターの五種を掲げざる。West Bromwich (Staffordshire) は、ロミッシュ、フラミッシュ、フロミッシュ、フラミッシュの順、Slaitwaite (Yorkshire) スライトスワイト、スライトカール、スロイト、スロークアント、Almondbury (Yorkshire) ホイムズブリー、ホードズブリー、アルモンズブリー、ベラウ (Norfolk) ユーラー、ユロー、ユロー、ユナー、Greenwich リンリヂ、グリンリッチ、グリンリッチ、同じ河の Hampshire の Stour せムスター又はスチアム、Warwickshire の Worcester せムスター又はストム、Woolsey, near Bideford は、ワウルフディスワース、Woolford は、ワウルフディスワース、Worcestershire の名は、その綴は、カール、ノース、Northumberland の Aln 屈せムスター、Alnmouth は、アルムマウス、Alnwick は、アルニク、Beauchief (Yorks) ユーチフ、Beaulieu (Hants) は、ボーロー、Beaumont (Cumberland) は、ボーナム、Beaudesert (Warwickshire) は、ボーデセート、Billericay (Essex) ユナロキ、Brightholmlee (Yorkshire) は、ブリットマリー、Buckland Tout Saints (Devon) は、バンクトン、Clebury Mortimer (Shropshire) の第一字は、クリブリー又はクレブリー。

万一私の誤讀がなすを言ふから、詳細は“Broadcast English-II”といふ書かたす。代價一鎊、B. B. C. Bookshop, Savoy-hill, London, W. C. 2. 發行 (一九三〇、九、一五、間崎万里)